

新しい生活様式における民生委員児童委員活動に向けて

News letter M I N S E I

Vol. 8 2022.9

相模原市大野北地区民児協の活動をご紹介します

地域に広がる「思い愛」



「つどい」に参加されたみなさん

阪神淡路大震災の教訓をいかして

JR横浜線淵野辺駅の周辺地域が担当地域である相模原市大野北地区民児協では、平成10年に起きた阪神淡路大震災をきっかけに大野北地区社協が開始した「大野北思い愛ネットワーク」の事業と一緒に取り組んでいます。災害時に支援が必要な方々や地域住民等とのお互いの理解と支えあいによる活動が必要とされたことから、大野北地区を13班に分け、見守りを希望する70歳以上のひとり暮らし高齢者、高齢者世帯を住民ボランティアであるネットワーク員が訪問・見守りをしています。

「大野北思い愛ネットワーク8班」では、大野北地区民児協会長であり、地区社協の副会長でもある脇山寿満子さんが中心となり、希望された31名の住民を8名のネットワーク員で訪問・見守り活動を行っています。

活動を通じて育む仲間の理解と協力

ネットワーク員は、民生委員児童委員（以下、民生委員）、元民生委員、自治会役員など地区社協の構成員である地域のボランティアで構成されています。元民生委員がネットワーク員になっていることで「新任民生委員と一緒に活動してくれたり、活動上の悩みを相談できる良い関係にある」と脇山さんは言います。民生委員をやめてしまうと地域とつながり続けることが難しくなってしまう場合もありますが「活動が楽しいから」と元民生委員全員がネットワーク員として活動しており、元民生委員にとっても活躍の場になっています。

また、自治会役員と日頃から一緒に活動することで、民生委員の活動をより良く理解してもらう機会になっており、お互いの困りごとを共有できる関係性となっています。生活課題が多様化・複



雑化する中、民生委員への期待が高まる一方で、委員だけでは対応できない問題もあります。ともに活動することで民生委員活動への理解が深まり、地域みんなで支えあうという協力意識が芽生え、育まれています。

やってみないとわからない

8班ならではの取り組みとして、見守りを希望する31名すべての方の誕生日にお花の鉢植えをお届けし、声かけを行っています。取材当日は、マンションで一人暮らしをしている高齢者のお宅を訪問。お花を受け取った方は「お花をもらうと気持ち前向きになるし、私のことを気にかけてくれる人がいるということを実感できるので、一人暮らしの不安が和らぎます」と笑顔でお話してくれました。



「お誕生日おめでとう。調子はどう？」何気ない会話とお互いの顔が見える関係性を大事にしています。



コロナ禍でポストイングや鉢植えをお渡しをする中、見守りを希望する方から「集まりたい」という声を聞くことがあり、8班では「つどい」を開催しました。他の班の人たちから反対の声もあったそうですが、8班のネットワーク員とも検討のうえ、当日は、飲食なし、人数制限あり、時間短縮で開催。11名が集まり、健康体操のレクリエーションや折り鶴をみんなで折ったりと楽しい時間を過ごしました。参加した方からは「みんなと会えて、話せてよかった」という嬉しい声が聞かれました。

コロナの状況とにらめっこしながらの活動は、不安や迷いが尽きませんが、今回、「つどい」を開催してみて「人と話したり、交流することで笑顔が生まれ、心も身体も元気になり、人と交わることの大切さが改めてわかった」と脇山さん。コロナ禍の民生委員活動について「なんでもかんでも



もできないとなってしまうのはよくない。工夫してできることを考える。そして、実際にやってみることが大事」と活動の原点になっている思いを語ってくれました。

「コロナが収束したらみんなで集まっておでかけしたい」と笑顔で語る脇山さん。

- * 神奈川県社協 民生委員児童委員部会は、県・政令市の民児協が参画する協議体です。様々な地域性やきめ細やかな幅広い委員活動から得る多様な情報や知恵を集結し、県・政令市の枠を越えて、交流、研修情報収集、意見具申など、スケールメリットを活かした協働事業の運営を行っています。
- * このニュースレターは、神奈川県内の民生委員児童委員向けに「新しい生活様式」に向けた委員活動やコロナ禍における委員の思いを発信するために、不定期に発行します。



HP : [神奈川県社協民生委員児童委員部会](#)



ツイッターアカウント : @kanagawa_syakyo



身近な地域で活動する民生委員児童委員のことを多くの方に知っていただけるよう、30秒のPR動画を作成しました。ぜひご覧ください。

